



【特集】モンゴル赤十字社保健支援事業 活動報告 モンゴル国の救急法講習支援に行ってきました！

日本赤十字社沖縄県支部 事業推進係長（講習担当）の井上稔之です。9月15～21日の1週間、モンゴル赤十字社（以下、モンゴル赤）への保健支援事業の一員として現地で活動してきました。

モンゴル国では気候変動の影響による「ゾド」と呼ばれる寒さと大雪による自然災害が大きな問題となっています。2023-2024の冬は-30℃を下回る寒さが襲い790万頭もの家畜が死亡しました。また、首都ウランバートルでは急激な発展により交通事故が急増し社会問題になっています。



前列一番右が井上係長

モンゴル赤本社スタッフと一緒に各支部を視察訪問して、救急法講習についての意見交換や課題の整理を行いました。指導員の数が少なく、また講習器材が高価で多くは整備できないので、講習の要望に応えきれない、というのは各支部共通の悩みでした。一番驚いたことは、一般用に設置されているAEDは国内全体で「4」台だけであり、一般市民にはまだまだAEDになじみがありません。一方で、交通事故・産業事故による重度の外傷が多く、止血や包帯など応急手当の必要性が日本以上に高いことを感じました。

最終日には各支部の講習担当者とワークショップを行い、指導員を養成するための日赤の効果的な取り組みを紹介した上で、今後の支援事業の方向性について意見交換をしました。



訪問した先々でたくさんのおもてなしを受け、モンゴルの人々のあたたかさに触れることができました。そして、モンゴル赤スタッフの救急法や防災に対する意識がとても高く、国全体をよりよくするために日赤から多くを学ぼうとする姿勢に強く感銘を受けました。今後も私の沖縄県支部での経験を活かし、モンゴル赤の支援に貢献していきたいと思えます。

このモンゴル赤支援事業にかかる資金は「NHK 海外たすけあい」募金が活用されています。毎年、有功会の皆様と一緒に街頭募金をしている活動が、実際に海外の方々に役立っている現場に参加できたことは貴重な経験となりました。今年も12月に青少年ボランティアと一緒に街頭募金を予定していますので、皆様のご参加をお待ちしています。

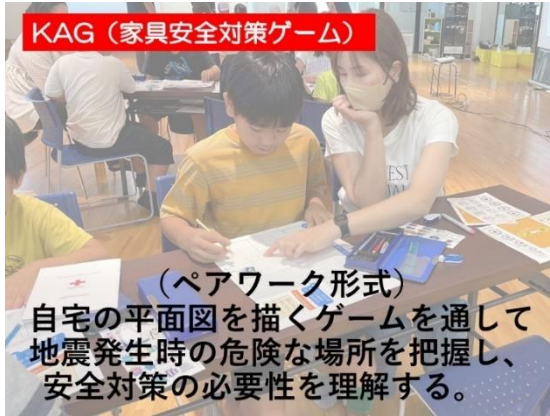


赤十字の防災教育



災害からいのちを守るための防災教育、**講師派遣**を行っています。

日本赤十字社では、平時より「いざ」という時の「備え」のための「赤十字防災セミナー」に力を入れています。令和6年度は4～9月末までに開催回数33回、のべ約1,490名の皆さまに受講いただいています！



〈お問い合わせ先〉 日本赤十字社沖縄県支部 事業推進課 崎山
TEL:098-835-1180 Mail:kyugo@okinawa.jrc.or.jp

ホーム
ページ



銀行等の窓口を訪ねることなく、ご自宅からご寄付いただくことが可能です。

継続的なご支援によって赤十字の活動は支えられています

1日約70円からはじめられる、苦しんでいる人を「救うこと」。

 たとえば毎月 2,000円 のご寄付で 安眠セットを年間 8人分 備える 避難所での夜を少しでも快適に過ごしていただけるようキャンピングマット、枕、アイマスクなどをセットにした「安眠セット」を年間8人分備えることができます。	 たとえば毎月 3,000円 のご寄付で 緊急セットを年間 24人分 備える 災害発生直後からの避難所生活時に必要となるものが一式収納された「緊急セット」を年間24人分備えることができます。	 たとえば毎月 5,000円 のご寄付で Bangladesh 避難民に こころのケアを 年間 600人 に行える 日本赤十字社の職員は、Bangladesh 避難民が先の見えない生活の中で少しでも安心できるように、悩みを聞いたり、相談になる活動を行っています。年間600人分のこころのケアを行うことができます。	 たとえば毎月 10,000円 のご寄付で 年間 1台 の トイレ整備ができる シリア難民キャンプの不衛生なトイレ環境を整えることで感染症を防ぎ、衛生状況を改善することができます。年間1台のトイレを設置することで健康とプライバシーを守る活動を行うことができます。
---	---	---	---

クレジットカードによるご寄付のお申込みはこちら

日本赤十字社 寄付 検索



インターネット：<https://donate.jrc.or.jp/lp/>

